

令和5年度（2023年度）第3回東海市まちづくり評価委員会会議録

議 題 令和4年度（2022年度）のまちづくりに関する評価（施策評価）
について

(1) 都市基盤（6施策）

(2) 地域づくり・行政経営（4施策）

日 時 令和5年（2023年）7月3日（月）午後2時から

会 場 東海市役所302会議室（3階）

出席者 委員：千頭聡、谷口庄一、杉浦円、下村一夫、松田剛、菅原好之、
長谷川一己、大岩英明

担当部等：西山総務部長、橘危機管理監、辻市民福祉部長、大西都市建設部長、若狭中心街整備事務所長、津田中心街整備事務所次長、名和交通防犯課統括主任

事務局：成田企画部長、内山企画政策課長、伊藤統括主任、新海主任

欠席者 竹内政義、木下俊春

公開の可否 公開

傍聴者数 0人

（内 容）

1 開会

2 令和4年度（2022年度）のまちづくりに関する評価（施策評価）について
事務局より施策主管課等が行った評価内容について説明

(1) 都市基盤（6施策）

(2) 地域づくり・行政経営（4施策）

3 今後の予定

主な質疑等は以下のとおり

施策 29 「地域の特性を生かした土地利用を推進する」

大岩委員： まちづくり指標 40 「自宅周辺が住みやすい場所（所）だと思ふ人の割合」は、区画整理だけで説明が可能か。学校やスーパーが近いことも影響する。その他の要因も分析する必要があるのではないか。

大西都市建設部長： 学校やスーパーが近くにあつて、徒歩圏内で移動できるというまちづくりを長期的な取り組みで進めているなかで、区画整理事業がその手段の一つとなっている。

大岩委員： 評価コメントに「持続可能な集約型まちづくり」とあるが、総合計画でも使われている言葉なのか。具体的なイメージが湧きにくい。

伊藤統括主任： SDGs の視点から、昨今の総合計画では「持続可能なまちづくり」という言葉を使うことが多いが、第 6 次総合計画では使用されていない。ただ、コンパクトシティを推進していくなかで、その内容を表す言葉として施策評価で使用している。

大岩委員： 用語としてはよく目にするが、市民目線では言葉の意味が分からないことも想定されるため、意味が伝わるように記述できると良い。

施策 30 「だれもが安全に安心して通行できる道路をつくる」

長谷川委員： 指標の動向としては良いと思うが、市民の安全を考えた時にめざそう値の設定が少し甘いと考える。「横ばい」でもよいのではないか。

大岩委員： 1 点目、施策名にある「安全に安心して通行できる道路」とは、歩道の整備や道路の高低差、歩行者用信号の十分な時間の確保などを考慮して判断しているのか。

2 点目、南加木屋駅周辺の市道を整備されていると思うが、状況はどのようなか。

大西都市建設部長： 1 点目について、アンケートで歩道整備が不足しているという意見もあることから、歩行者関連の整備が必要であり今後注力していきたいと考えている。

2 点目について、勾配の大きさの問題や通学路でもあるということから、改良が必要と認識している。市内にはそのような道路が他にもあるため、

早急に対応していきたい。

下村委員： 評価コメントの「道路整備が進んでいるものの、供用開始に至っていない」とはどういうことか。

大西都市建設部長： 横須賀周辺などは長期で道路整備を進めているが、用地買収の進捗によって全路線を整備できていないところもあり、まちづくり指標に影響しているのではないかと考えた。

下村委員： 整備は進んでおり、まちづくり指標も改善しているため、評価は「横ばい」ではなく、「順調」でもよいのではないか。

千頭委員長： 施策の評価コメントは主管課のみで記述しているのか。それとも関係部署と調整して記述しているのか。

伊藤統括主任： まず初めに、各課が単位施策に紐づく事業の実施状況を確認し、その結果を見て単位施策の主管課が評価を実施する。それら全てを総合して、施策の主管課が施策の評価を実施している。

千頭委員長： 「安全に安心して通行できる道路」には様々な要素が影響するため、主管課である土木課の視点だけで判断するものではないという考えもある。

大岩委員： 歩道の整備も進んでいるため、「順調」でよい。

施策 3 1 「快適に移動がしやすい交通環境をつくる」

下村委員： 指標の動向から判断すると成果動向は「順調」でよいと考える。

長谷川委員： 免許返納者が増え、高齢化が進むなか、市民の足としてのらんらんバスの利便性についてはまだまだ改善の余地があると考えます。アンケートだけでは見えない部分もあるのではないかと。改善を引き続き進めてほしい。

菅原委員： らんらんバスが一時間に一本しかない、目的地まで一時間くらいかかる、バス停まで行くのにも苦勞しているという声を聞く。半田市のお出かけタクシーという事業が利用しやすいという話も聞いたため、そのような事例も参考にしながら、公共交通機関の選択肢が増えて住みやすいまちづくりを進めてほしい。

名和統括主任： 昨年度、実際の乗客を対象とした調査を実施した。午前中で用事を済ませて帰りたいという意見が多く、午後の利用が減る傾向もある。地域公共交通会議でも議論をしているが、利用者の声を聞きながら、ダイヤ改正な

どを考えていきたい。また、乗車時間は長くても30分程度の利用が多いため、ルートを短くして便数を確保する方法も検討している。半田市の事例については、デマンドタクシーとして様々な自治体が検討を進めている。地元のタクシーを活用し、相乗りタクシーなどでシェアするなど、ドア to ドアに近い形の支援を考えていきたい。

谷口職務代理： 地域交通政策と都市計画マスタープランは連携しているか。

大西都市建設部長： 都市計画マスタープランの改定のなかで、バスの運行ルートを生活圏で捉え、地域交通と考え方を合わせていこうとしている。

名和統括主任： 循環バスは、東海市は他市と比較して利用者が多く、身近な移動手段として認知度も高い。他の地域は、循環バスがメジャーになっておらず、タクシーなどを活用している自治体が多い。東海市では、名鉄と知多バスを軸に、枝のように循環バスを運行しているが、鉄道駅が少ない等の地域特性があるため、タクシーの活用も検討しながら、都市計画マスタープランとも考え方をすり合わせていきたい。

千頭委員長： 生活圏は市外にも広がっている。広域的に公共交通会議を開催できるとよい。

名和統括主任： 大府市の会議には参加し始めている。長期的な視点で、コミュニティバスの相互利用等自治体間の協力が必要になると周辺自治体も認識しているため、そのような他市町の会議にも参加し、広域的な連携を進めたいと考えている。

長谷川委員： 地域によってはバス停までの距離が遠いという課題がある。地域特性の課題を解消するために、タクシー利用等の補助を費用対効果も考えながら検討してはどうか。

杉浦委員： 高齢者だけでなく、小さな子どもを持つ保護者や、車を持たない若い方も施策の対象となり得ると考える。

施策32「花と緑の豊かなまちなみをつくる」

長谷川委員： 公園の整備などは順調だと思うが、公園に出入りする道や階段のバリアフリー化については、課題があると考えます。

大西都市建設部長： 公園ごとにリニューアル計画があり、国が定めるユニバーサルデザイン

の考え方を取り入れて徐々に整備していきたいと考えている。

谷口職務代理： 施策名は「花と緑の豊かなまちなみをつくる」だが、内容が公園ばかりである。生垣や街路樹の充実、宅地の緑化推進など、まちなかでの花や緑を豊かにする取り組みの記述があってもよい。

千頭委員長： 事業者に対して緑化に関する指導はしているか。

大西都市建設部長： 法律に基づいた指導はしているが、カーボンニュートラルの推進などそこから更に進んだ取り組みについては現在検討中である。

また、公園整備以外の取り組みについては、道路整備のなかで実施しているものもあるため、この施策では表に見えにくいという状況である。

大岩委員： 評価コメントが推進と維持管理についての記述であり、当然の内容のよさを感じる。分析が浅く、指標の動向の説明には至っていないのではないか。取り組みの成果や課題が具体的に読み取れるような表現ができると良い。

下村委員： 単位施策の成果動向が「順調」「横ばい」「順調でない」とばらつきがあることから、施策の評価は「横ばい」でよいと考える。

施策 3 3 「浸水被害がない地域にする」

長谷川委員： 線状降水帯による被害が少ない地域で、ある程度の大雨にも対応できるということから、「順調」でよいと考える。

施策 3 4 「良好な都市景観と快適な住環境をつくる」

長谷川委員： 単位施策や指標の動向が順調であり、このまま景観に配慮した施策が推進されれば、喜ぶ市民も増えると考えられる。「順調」でよいと思う。

大岩委員： アダプトプログラムにおける市民の花というのは、市が用意するのか。

大西都市建設部長： 市が渡すものもあれば、市民自身で育てるものもある。

千頭委員長： 1点目、尾張横須賀駅周辺の景観整備について、ベビーカーなどが通れる道がないという意見があった。景観と合わせてバリアフリーの視点も課題として認識されるとよい。

2点目、市営住宅の事業は今後も継続していくのか。

大西都市建設部長： 2点目について、下大脇住宅の建て替えなども進めており、劣化状況等

も考慮しつつ整備を進めていく予定だが、国の動向を注視しつつ、市営住宅の役割を変えながら進めていくこともあると考えている。

谷口職務代理： 成果指標 3 4 1 1 「市内の公共施設が周辺のまちなみと調和していると感じている人の割合」に関して、指標の捉え方が難しいと考える。都市景観は評価の仕方が難しく、市民アンケートでも的を射た回答がどの程度あるのか疑問がある。

施策 3 5 「地域が主役のまちづくりを推進する」

千頭委員長： 新型コロナウイルス感染症の影響が顕著に表れていると感じる。

菅原委員： 成果指標 3 5 1 1 「コミュニティや町内会などの地域行事や活動又は市民活動に参加している人の割合」については、コロナ禍で考え方が大きく変わったと感じる。地域活動の必要性がそこまで無いことに気付いた人や、興味がない人が増えており、コミュニティとして解決策を考えているところである。また、成果指標 3 5 1 2 「地域や隣同士でのつきあいを大切にしている人の割合」については、プライバシーの問題も関係しており、現代では自分を守ることが重要視され、周りの人と付き合うことが少なくなっている。これらは従来の状態に戻ることは難しく、課題と考えている。モデル地区の取り組みも進めているが、いかに地域活動に興味を持ってもらえるか、きっかけづくりを進めていきたい。

大岩委員： モデル地区の取り組みはコロナ禍で中止したのか。

西山総務部長： 4つのモデル地区の取り組みは、去年も今年も実施している。成果として、将来のビジョンとして冊子を作成しており、そのビジョンに向かってどのように実行していくかについて、今年は取り組んでいるところである。

大岩委員： コミュニティを協働の相手方とするとしているが、全てのコミュニティ協働の相手方として応えることができるのか。町内会・自治会などの加入率も下がっていることを踏まえ、モデル地区の取り組みはどの程度広げていけるのか。

西山総務部長： コミュニティによって歴史や特性が異なり、町内会・自治会が解散した地域もある状況ではあるが、災害時に市で対応可能な範囲は限界があるため、一定の地域力が必要となる。コミュニティにより、人材・体力に差があ

ることは市も把握しているため、地域によって支援のかたちを変えながら進めていきたいと考えている。

大岩委員：自治会などに加入していない人に対して、防災情報などの周知をどのようにフォローしていくのか。

西山総務部長：コミュニティ単位で対応していく。自治体・町内会への加入の有無は問わないため、コミュニティの役員を通じた情報共有を考えている。

大岩委員：行政としてはコミュニティをエリアで捉えているが、実際に町内会・自治会に加入していない人にとってはコミュニティの一員という感覚も無いのではないかと。役員を通じたとしても情報共有は難しいと考える。

西山総務部長：詳細な共有方法については課題である。

千頭委員長：評価コメントに「4つのモデル地区を中心とした取り組みを展開する」とあるが、それ以外の地区が適切に取り扱われていないような印象を受ける。モデル地区の取り組みを市全域に活用していくことが読み取れる記述ができるとよい。

施策36 「すべての人が交流・共生できるまちをつくる」

千頭委員長：まちづくり指標47「職場や家庭、地域などで性別や国籍などにかかわらず生活していると思う人の割合」について、この設問に対して当事者である外国人が回答していない可能性が高いと思われるため、その点は課題と感じる。

下村委員：単位施策の成果動向に鑑みて、施策は「横ばい」で良いと考える。

千頭委員長：まちづくり指標の動向を見ても、順調とは言い難いため「横ばい」で良いと考える。成果指標3612「審議会、委員会などの女性委員の登用率」については、5割程度を目指すべきである。

施策37 「情報交流が図られたまちをつくる」

千頭委員長：成果指標3732「情報セキュリティに関する講習を受けた職員の割合」は、100%が当然ではないか。

成田企画部長：産休中等の職員は対象となっていない。オンラインでの受講方法も取り入れているため、今後はこれらの職員についてもフォローできるように進

めていく。

谷口職務代理： C A T Vをどれくらいの市民が見ているかは分かるのか。

成田企画部長： 加入者数は把握できると思うが、視聴率などは把握していない可能性がある。

谷口職務代理： C A T Vの番組を、ウェブ上のアーカイブ動画で見ることにはあるが、リアルタイムの放映で見るとはほとんどなく、施策の効果を上げる要因としては弱いように感じる。

千頭委員長： マスメディアでの取り上げられ方に関してだが、大府市に関する報道がよく見かける。東海市が先に同じような取り組みをしていますが、大府市だけが取り上げられていることなどがあり、残念に思う。情報発信についても力を入れてほしい。

施策 3 8 「効率的で健全な行財政運営を進める」

千頭委員長： この施策の指標は、成果指標も含め単年度で上がり下がりを見るものではない。市で中長期的なシミュレーションができているとよい。

下村委員： 評価コメントに「自営業の人の数値が低下」とあるが、そこに対してもう少し深い分析ができるとよい。

長谷川委員： 成果指標 3 8 1 1 「広域事務事業の数」とはどのようなものが含まれるのか。

内山企画政策課長： 病院や墓園、介護保険などが対象で、今後のごみ処理施設も含まれてくる。広域に取り組むことで、経費を圧縮化するという目的もある。